

授業科目名	発達心理学	担当教員名	福井 ふみ子
必修/選択	必修	開講学年・学期	1年 前期 (年間開講数 2講座)
科目区分	教職・保育に関する科目	単位数	2単位 (30時間)
施行規則に定める科目区分等	教育の基礎理解に関する科目-幼児の心身の発達及び学習の過程 保育の対象の理解に関する科目	授業方法/担当形態	講義 / 単独
		特記事項	※実務経験のある教員等による授業 児童相談所の臨床心理相談員として、また幼稚園のキダーカウンセラーとして、発達等についての相談業務に携わった経験を活かし、理論と実践を結びつけた授業を行っている。 ※「保育の心理学」の指導内容を含む
授業の概要及び全体目標	子どもの発達を年代ごとに追っていく。		
到達目標	<p>(1)幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。</p> <p>①幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。</p> <p>②乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。</p> <p>(2)幼児、児童及び生徒の学習の過程：幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。</p> <p>①様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。</p> <p>②主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。</p> <p>③幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。</p> <p>(1)幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。</p> <p>①幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。</p> <p>②乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。</p> <p>(2)幼児、児童及び生徒の学習の過程：幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。</p> <p>①様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。</p> <p>②主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。</p> <p>③幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。</p>		
テキスト	使用しない（プリント配付）		
参考書・参考資料等	「生涯発達心理学」B. M. ニューマン、F. R. ニューマン著(川島書店)、「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社)、「ラーニングガイド児童発達の理論」R.M.トーマス著(新曜社)、「新版生涯発達心理学 エリクソンによる人間の一生とその可能性」B.M.ニューマン、F.R.ニューマン著 福富護訳(川島書店)		
成績評価の方法	○定期試験：90% ○平常点（授業態度・意欲）：10%		
授業計画	授業の内容		到達目標番号
第1回	オリエンテーション 講義概要の説明 発表の分担決め		(1)-①,(1)-②
第2回	胎児～0歳児の発達（胎児） ・胎児の発達を入れることによって、人間存在の深遠さを理解する。		(1)-①,(1)-②,
第3回	1～2歳児の発達（乳児） ・母子手帳の「成長曲線」の読み取り方を学ぶ。		(1)-①,(1)-②,
第4回	3～4歳児の発達（年少・年中）		(1)-①,(1)-②
第5回	5～6歳児の発達（年長） ・「円城寺的発達検査」を模擬的に実施することにより、発達検査の採点の仕方、結果の読み取り方を学ぶ。		(1)-①,(1)-②
第6回	7～8歳児の発達（小学校低学年）		(1)-①,(1)-②
第7回	9～10歳児の発達（小学校中学年） ・「田中・ヒネガー検査」項目の一部を紹介することにより、学童期の知的理解の仕方を学ぶ。		(1)-①,(1)-②
第8回	11～12歳児の発達（小学校高学年）		(1)-①,(1)-②
第9回	0歳～12歳までの発達のまとめ 小テスト実施		(1)-①,(1)-②
第10回	13～15歳児の発達（中学生） ・思春期に多い問題の理解を通して、児童相談所とのつながり、スクールカウンセラーの利用の仕方などを学ぶ。		(1)-①,(1)-②
第11回	16～18歳児の発達（高校生）		(1)-①,(1)-②
第12回	18～30歳（高卒以上～成人前期）の発達		(1)-①,(1)-②
第13回	30～60歳（成人中期）の発達		(1)-①,(1)-②

授業計画	授業の内容	到達目標番号
第14回	60歳～（成人後期）の発達 ・人間は死ぬまで「発展途上」であること、人間存在の意味について学ぶ。 ・老人施設、デイケアなど社会福祉施設との関連を学ぶ。	(1)-①,(1)-②
第15回	まとめ（用語解説、質疑応答など）	(1)-①,(1)-②
定期試験	筆記試験	